

## 平成25年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成25年7月5日(金) 午前10時～

2 場 所 考古博物館(風土記の丘研修センター)

3 出席者 (敬称略)

(委員) 小川はるみ、谷口一夫、齊藤洋子、堀田一朗、今福政江、杉野美幸、  
篠原春子、吉岡剛、堀之内睦男、佐久間豊人 10名  
(事務局) 望月館長、福島次長、米田学芸課長、総務課員2名  
(教育庁) 堀内教育次長、学術文化財課員2名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) その他
- (5) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成24年度考古博物館事業実績について
- (2) 平成25年度考古博物館経過・予定事業について
- (3) 考古博物館基本理念について
- (4) その他

6 議事の概要

○ 平成24年度事業実績、平成25年度経過・予定事業に関する質疑等

(委員)

これだけの事業を運営していく裏側では、水面下で職員の皆さんがこの資料に文字になっているものの数倍の努力をしていると思う。全てのイベントの参加者に危険が及ばないようにするなど、大変な努力の上にこのような事業が行われているということを報告したい。

考古博物館に展示してある資料を見ているだけでは、沈黙資料なので何も語りかけてくれないが、その資料から歴史を語ってもらうのが考古学というもの。そこにモノがあるということは歴史事実。文字資料である文献、古文書などは発言資料と言われ、読めばそれで分かるが、中にはウソが書いてあったりするので、それを検証しなければならない。それに考古の遺物や遺構などが重なり合うと、考古資料は沈黙しているが、資料そのものが歴史の事実になる。

考古資料などから歴史を解明して、解明した歴史をいろいろなプログラムにアレンジして、それを来館者にどうやって伝えるか、考古博物館ではそういう努力を日常的に行っているということ。

(委員)

これだけの事業を展開するための皆さんの努力には、本当に感心すると同時に感謝したい。昨年度の特展「インカ帝国展」について、私自身も5、6年前にペルーのマチュピチュに

行ってきた。本当に素晴らしかったが、たどり着くまでに4日程度かかった。その時に本当に感慨を覚えたが、それがまたこの山梨で再び見られるということに感激した。東京、仙台、山梨と全国を回っている巡回展だが、狭い会場ながら工夫して全てを展示できたことは非常に良かったと思う。また、協力員の方々の多大なるご協力もあって、皆さんが一丸となってこの企画展を成功させたのだということがよく分かった。

また、昨年度は孫を見る機会が多かったので、考古博物館のいろいろなイベントに参加させてもらった。縄文時代のカゴを作ろう、縄文土器を作ろう、土偶を作ろうなどに参加したが、本当に指導員の方が熱心に丁寧に説明してくれて、考古学など全く分からない子ども達が「いっちゃん」にそっくりな土偶を作ったりした。1つ1つのイベントに参加することが、子ども達にとって山梨の歴史、日本の歴史を勉強することに繋がっていると思う。本当に素晴らしい企画と丁寧な指導を行っており感心している。

(委員)

子育て中の家庭人の立場から気付いた点を上げさせてもらいたい。

1つ目は、考古博物館の「チャレンジ博物館」と埋蔵文化財センターの「古代の生活スタイル」の日程がバッティングしていることがあった。連絡を密にして頂いて、たくさんのイベントに参加できるようにして頂ければありがたい。

2つ目は、特別展に関して、富士山が世界文化遺産に登録されるなど、郷土教育も含めて地元に対して注目が集まっている。特別展でも、山梨県の素晴らしさに着目したアプローチもあっていいのではないかと思う。

3つ目は、これだけのイベントをやるとなると、学校対応も含めて職員の方々は大変だと思う。登呂博物館などはボランティアをとっても有効に活用しており、90名を超える登録があると聞いている。考古博物館でももっと活用してもいいと思う。

4つ目は、非常に多くのイベントを実施しているが、イベントに偏りすぎてしまうと学びの部分が減ってしまうことになる。バランスをうまく取ってもらって、1回限りのイベントばかりでなく、リピーターを増やすような視点を入れてもらえたらと思う。小さい子どもでも楽しめ、大人でも来て学べるような、欲張りな博物館を目指してもらえればと思う。

(委員)

この1年間委員をさせてもらったが、積極的にイベントを行うのか、展示を充実させるのかという、そのバランスは非常に難しいものがあると思う。

先日、「桃を見る会」のツアーがあってここ風土記の丘を訪れたが、一緒に来た人たちが誰も来たことがないということで、やはり認知度的なことも一工夫いるのかなと感じたところ。風土記の丘といういい環境の中でこのような展示を行っているので、何か工夫があってもいいかなと感じた。

(委員)

小中学校の社会科教育の研究会の代表だが、社会科の教員も資料は頂いているがこれだけの企画があることは知らないと思うので、学校教育の現場にも伝えて頂く工夫をさらにお願ひしたいと思う。

事務局にお聞きしたいが、資料 P.9 の職場体験について具体的にどんなことをさせてもらっているのかということと、資料にある古代衣装のほかに、縄文土器や弥生土器の貸出キットのようなものがあつたような気がするがどうか。

(事務局)

中学生の職場体験については、夏休み期間中なので「夏休みフリーパスポートイベント」という体験講座をレクチャーして、職員と一緒に自分たちより年下の子ども達の指導に当たってもらうということをやっている。土器の貸出については、併設の埋蔵文化財センターで貸出キットを持っていて、頻繁に利用されている学校が多い。

(委員)

ずいぶん前の「総合的な学習」という制度がない時に、高校1年生をマイクロでここへ連れてきて指導してもらったことや、学園祭で使う火おこしキットを借りに来たことがあるが、それ以来ずっと関わり合いがなくなってしまった。科学館などもそうだが、県内のどの施設も、イベントをやるとなるとどうしても小中学生がターゲットになる。入館者の統計などを見ても、高校生の参加はほとんどないような状況だと思う。

今回の「基本理念」を見ても、学芸的な部分、後継者を育てていかなければならないという使命もあると思う。昨年の進路相談の中で考古学を希望した生徒がいたかということ、ほとんどいなかったと思う。イベントで何人来たかということが表には出てくるが、県内の高校生の3人も4人もかもしれないが、考古学という学問や職業に興味を持てるような人材を発掘するということも必要ではないか。高校時代になってくると将来を見越して考える時期になるので、職場体験とはちょっと違った、考古学に興味のあるような高校生をターゲットにした講座というようなものもあっていいのではないか。

(委員)

公立だと中学と高校のつながりはあまりないが、私立だと中高を混ぜたプログラムを行うと、高校生が中学生を連れてくる、中学生が高校生になった時に新しい中学生を連れてくるという、1つの循環が発生する。そういう一定のプロセスを経過しないと、いきなり高校生向けのイベントといっても、なかなか高校生は集まってくれない。

(委員)

いきなりイベントをやって高校生を集めるということではなく、地道な中で最終的に高校生が将来を見越して進んでいくことに焦点を当てるのが大事で、そうでないとイベントだけで終わってしまうと思う。

(委員)

昨年度はインカ帝国展に全校児童が参加させてもらったところ、そのあとで子どもが親を連れてくる姿があったりした。5年生が6年生になるに当たって、すぐに縄文時代の勉強があるので、前倒しで年度末の3月に勉強させてもらいに来た。これはこの委員になったからこそできたことで、考古博物館にしろ、風土記の丘にしろ、接点を持たないことには動けないなということ自身を体験を通して感じた。

今日も下から歩いて上ってきたが、林に囲まれた道がすごく素敵で気持ちがよく、しばらく散策を楽しんだ。こんなきれいな環境の整ったところを、多くの人たちに知ってもらって活用してもらいたいと思った。今はラジオ体操ブームでもあるので、いろいろな形で県民が風土記の丘の自然に親しむということも大事で、とにかく接点を多く持つということが関心をもってもらう第一歩ではないかと思った。

私ももうそろそろ退職になるが、今年度の事業の中で私ならこれに参加したいと思うものがいくつかあった。その中で、事前の問い合わせの多いという「河口御師の里を訪ねる」やPRが足りなかったという「富士山のお札をつくろう」など、タイムリーなものを1回ではなく、2回くらいやって頂けるとありがたいと思った。

熟年者はタダで学べる場所を求めていると思う。この講座はタダで学べる場所なので、PRの仕方を上手にしてその良さに気づいてもらおうと、かなりの熟年者がリピーターになってくれるのではないかと。時間はあるけど、お金を使わずに学びたいという人たち、しかも健康に関心を持っている人たちは大勢いると思う。そこら辺を考えてプランすると、小中学生ばかりでなくて、熟年層に受け入れてもらうことになり、そこから孫を連れてくるという形が出てくるのではないかと。講座で学んだことを、実際に歩く作業なども入れて学習する、健康と学びがセットになったようなプランがおもしろいのではないかと。それが、単発ではなくて、年間を通してテーマがある、市民講座のような形にすると、学びと健康と余暇とがあり、しかもお金がかからないとなると受け入れられていくのではないかと。と思う。

(委員)

私も全く同じ感想を持ってここまで上がってきた。とてもきれいに管理されていて、緑の美しい中を車で走ってきた。考古博物館での展示やイベントなどについては、十分に実施していると思う。博物館個別ではなく、もちろん考古学の視点を絡めてだが、丘陵全体の魅力を、公園全体を1つの宝物として、県民の皆さんに伝えていくようなことが必要ではないかと。

私が高校の教頭の時にここに遠足に来た。古墳の周りでお弁当を食べて、そして山を登ってきて、この前庭で火起こし体験をするというものだった。やはり博物館の中に入って2時間、3時間も展示物を見て勉強しろというのはなかなかできない。高校生くらいになると、音楽であったり、スポーツであったり、受験勉強であったりというように、自分の関心ができあがってくるので、考古学の展示物を2、3時間見てレポートを書きなさいというのはなかなか受け入れがたい。古墳の周りでお弁当を食べて、山の緑を楽しんで、火起こし体験をしてというように、この丘陵自身が持っている全体の魅力をもっと県民にアピールすることで、もっとたくさんの方が来館するのではないかと。と思う。

(委員)

この曾根丘陵は、古代の甲斐の国の政治体制の発祥の場である。ここが原点で、山梨県の政治体制がだんだん発展してきた。

(委員)

考古博物館の脇から管理用道路を歩いて上ってきた。その間の自然風景は、この協議会に出席する1つの楽しみにもなっている。

生涯学習という観点から、考古学講座は現代との関連というテーマでいろいろ企画されているが、こういう視点は考古博物館に興味を向けてもらえるきっかけになると思う。例えば、この会場をコラニー文化ホールとか別のところに移してもう少し多くの人に聞いて頂くと、それは同時に考古博物館のPRにもなると思う。特に、災害の関係や縄文食が非常食に結びつくというテーマは、考古学に興味がない人でも感心があることなので、そんなことも考えてみてはどうか。

考古博物館へのアクセスについて、ちょっとしたできごとに遭遇したのでお願いできればと思う。甲府のバスターミナルで、南部中学の中学生5人ほどが考古博物館に行くのにどのバスに乗ったらいいかわからないということで、たまたま私がそばにいたのでこのバスだと教えてあげた。バスターミナルの看板には、「医大・伊勢町方面」とあるが、「考古博物館」という表示はない。観光客の方も増えると思うので、もう少しバスなどの公共交通機関の行き先表示をしてもらうだけで違うと思う。ちなみに「県立博物館」もなくて「美術館」だけはあった。

(委員)

これは、この協議会のはじめのころからの一番の課題だった。以前はここは中道町で、甲府市ではないから駅前の看板にも表示できないというようなことから始まった。今は甲府市になったからいいのではないかということもあるが、バスそのものの乗客が日常的に少ないので、どうしても本数が増えないということになる。足の問題は、ずっと続いている課題として受け止めてもらって、引き続き交渉などを続けてほしいと思う。

園内の古墳は、上に上って昔の人たちの気持ちも実感できる非常に素晴らしい場所。しかし惜しいのは、形だけで土の中は見えないので、展示室の中に再生するなどして視覚に訴かけることもあってもいいのではないか。あるいは、現場そのものをガラス張りにして保存して、それを見に来ることができるようにするなんてことも考えられる。

そうはいつでも予算もあってのことだと思うので、今の時代に合った臨場感があって、興奮するようなものが1つや2つあってもいいかなと思う。

(委員)

発掘調査では地中に埋まっていたものが見つかったり、遺構が調査されたりして、歴史のあるべき姿が資料として残される。今生きる人たちは、それを後世に残していかなければならないので、きちんと残すための保存の方法にものすごく苦心してやってきている。まずは、記録保存、そして出土したものや写真のデータはこういった博物館が公開している。遺跡に手をかけることをしないで、まずは後世に残してやるということ。手をかけないで残しておけば、将来またそこから新たな観点で歴史の真実がさらに明らかになることもある。そういう意味で、遺跡の保存ということが必要だし、資料の活用ということに繋がっていく。

○ 考古博物館基本理念に関する質疑等

(委員)

この基本理念を見ると、これに基づいて活動をしているということが改めて再認識できると思う。この基本理念(案)についてはじっくり考えて頂いて、委員の皆さまからご意見等があれば会議のあとでもいいので事務局に伝えて頂きたい。

○ その他の質疑等

(委員)

フリーライターで情報誌に記事を書いているが、何かを照会した時に考古博物館と研修センターと埋蔵文化財センターと窓口が3つあって煩雑さがある。できれば受付の窓口はワンストップにしてもらって、その後は振り分けて折り返し電話できるような対応をして頂ければありがたい。いい資源をたくさん持っているので、有効に活用できるようにしてもらえたらありがたい。

(委員)

外部からの問い合わせに対する内部的な処理方法というようなことも、検討して頂けるといいのではないか。